

日本におけるアスリートのキャリアサポートについての研究 —Jリーグキャリアサポートセンターを例に—

Career support programs of athletes in Japan

1K05B143

指導教員

主査 武藤泰明先生

塚原 康彰

副査 間野義之先生

【序論】

より記録を向上させ、より良い成績を残すために、競技スポーツに打ち込み、ある種特殊ともいえる環境に身を置くアスリートの中には、競技引退を機に、競技者でない自分を受け入れられず、社会への適応が困難になってしまう者が少なくない。こういった問題から、アスリートのキャリアサポートの必要性が高まり、研究が進められ、各国でキャリア支援のプログラムが作られるようになった。我が国においても、Jリーグキャリアサポートセンターを先駆けとして、近年注目を集めるようになった。しかし、キャリア支援の先進諸国と比べると、まだまだ日本は後進国といえ、問題はあはるはずである。

そこで本研究では、日本では最も先進的な取り組みをしているJリーグキャリアサポートセンターを対象とし、先行研究から今後取り組むべき課題を見つけ出すことを目的とする。

【研究方法】

これまで各国で進められてきた理論研究と実証研究の流れをそれぞれ把握し、キャリアサポートに求められる要素を示す。その上で、Jリーグキャリアサポートセンターの取り組みと比較するため、HPや資料などから得られる表面的な情報と現役Jリーガー2人からのインタビュー調査を参考に、実際にどの程度のサポートを行っているのかを明らかにする。その結果を元に課題を見つけ、海外の事例を参考に今後求められる支援内容を考察していく。

【結果】

Jリーグキャリアサポートセンターが公示しているサポート内容は、先行研究から得られた、キャリアサポートに必要な要素をほぼ含んでおり、非常に効果的に見える内容であった。しかし、現役Jリーガーからのインタビューから、それぞれの実際の取り組みにおいて、力を入れている項目とそうでない項目が明らかになった。キャリアサポートにおいて最も重要となるのは、選手たちに早い段階で競技引退とはどういうもので、どう体験するべきか、ということを考えさせる教育的要素といえる。このベースとなる要素がなければ、どんな支援も効果的でなくなってしまうからである。しかし、インタビューから、その最も根本となるべきキャリアに関する教育的支援がおろそかになっており、その先で行われるべき就業体験プログラムが重点的に行われていたことが明らかになった。

このことから、キャリアサポートセンターに対する課題点として、「教育的要素とキャリアカウンセラーの充実化」と「アマチュア選手に伴う問題」の2つが大きくあげられた。ドイツやオーストラリアなど先進諸国の例を見ると、教育的要素が充実しており、早い段階からキャリアを意識するようなプログラムになっている。また各選手個別への対応も整っており、専門のキャリアコンサルタントが存在している。キャリアサポートセンターにおいても、支援の介入時期をより早め、頻度を増やし、スタッフの数を増やすなどの対処法が求められるといえる。

【まとめ】

Jリーグキャリアサポートセンターが設立からわずか8年でここまで活動の幅を広げ、国内において他の模範となってきたことは評価に値するだろう。しかし、それでも上記にあるような課題が浮かび上がってくるのは、先行する海外の取り組みを真似るあまり、元アスリートを再就職させるという結果にばかりこだわったからではないだろうか。

周囲の必要な条件を用意し、そこに選手を当てはめていくというだけの支援では、根本的な問題の解決には至らないのである。確かに選手たち

に職を持たせるということだけが目的の支援であるならば、そういった形式が得策だろう、しかし、究極的にはスポーツの社会的価値を高めるような支援をしていかなければならない。つまり、サポートを受けた選手がスポーツ界の外に出た時に活躍できるように主体性が失われてはならない。今後キャリアサポートという観点から、競技スポーツの価値を高めていくためには、将来を見据えた選手たちの支持的な支援が求められるといえるだろう。